



2020年9月29日

各位

会社名 株式会社ヘッドウォータース  
代表者名 代表取締役 篠田 庸介  
(コード番号：4011 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役管理本部長 原島 一隆  
(TEL 03-5363-9361)

## 東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2020年9月29日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年12月期(2020年1月1日から2020年12月31日)における当社の業績予想は、次のとおりであります。また、最近の決算情報等につきまして別添のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2020年12月期 (予想)		2020年12月期 第2四半期累計期間 (実績)		2019年12月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売上高		1,134	100.0	6.3	588	100.0	1,067	100.0
営業利益		184	16.2	52.9	134	22.8	120	11.3
経常利益		172	15.2	42.0	131	22.4	121	11.4
当期(四半期)純利益		138	12.3	38.8	110	18.8	100	9.4
1株当たり当期 (四半期)純利益		163円79銭		134円74銭		121円72銭		
1株当たり配当金		0円00銭		0円00銭		0円00銭		

(注) 1. 当社は、連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。

2. 2020年6月16日付で、普通株式1株につき200株の株式分割を行っておりますが、2019年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。

3. 2019年12月期(実績)、2020年12月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。

4. 2020年12月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(100,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。なお、当該株式数にはオーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資分(最大15,000株)は含まれておりません。

5. 当期業績予想は、2020年1月から6月までの実績数値を踏まえ、2020年7月から12月までの予想数値を用いて算出しております。

## 【2020年12月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社の見通し

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、一定の内外需要を背景とした継続的かつ底堅い基調でありましたが、米中、中東などの国際情勢に端を発する海外発の景気下振れリスク、当第1四半期より発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大により先行きが不透明な状況にもあります。

このような経済環境の中、次世代高速通信網5Gの導入、社会へ普及が進む人工知能(AI)など、人を介さないコミュニケーション手段の進展、リモートワークの広がりによるインターネットの活用が一層進むことが予測されます。

その中で、当社はAIを活用したソリューション開発の需要を的確に捉え、店舗の無人化や倉庫における棚卸の自動化、事務業務の自動化ツールの開発等、AIや機械学習機能をロボットやスマートスピーカー、スマートフォンなどに連携するAIソリューション開発の実績を積み、概念実証から業務システム等への受注が増加しております。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)サービスにおいては、一部新型コロナウイルス感染症の影響を受けた業種からの受注は中止若しくは延期が発生しましたが、既存顧客からの継続案件の獲得、新規顧客についてDX(デジタルトランスフォーメーション)化を進めたい顧客からの受注獲得が進んでおります。

そのような状況の下、2020年12月期の当社業績は、売上高1,134百万円(前期比6.3%増)、営業利益184百万円(前期比52.9%増)、経常利益172百万円(前期比42.0%増)、当期純利益138百万円(前期比38.8%増)を見込んでおります。

### 2. 業績予想の前提条件

#### (1) 売上高

当社における年度の売上計画策定プロセスといたしましては、既存顧客の売上実績及び既存顧客における事業計画やシステム化計画等に基づき需要を予測し、顧客別の売上高を策定します。次に、既存顧客の案件に充てるエンジニアや外注以外の社内のエンジニアの予測稼働率や外注への発注見込額から新規顧客に対する予測売上高を策定します。

売上高については、個別案件の積上げ方式により算定しており、計画策定時に受注済みもしくは交渉中の案件(プロダクトサービスやOPSサービスの案件も含む。)については交渉に基づく売上計画を策定し、今期も受注が想定される顧客については、顧客からヒアリングした年度予算情報や過去の受注実績等を踏まえた数値を策定しております。その上で、受注確度に応じたリスクを勘案し、可能な限り具体的な案件計画を作成することとしております。

2020年12月期においては、AIインテグレーション企業としての実績を積み、知名度を向上させるため、当社の主力サービスであるAIインテグレーションサービスの比重を高めることに重点を置き、様々な業務への新しいAIソリューションの提供を進めてまいります。実績を積み、知名度を向上させるためには、顧客数を確保することが重要と考え、2020年12月期は31社(前期比47.6%増)を目標としており、2020年第2四半期累計期間で23社を確保しております。

また、DXサービスについては、売上高は現状を維持し、売上総利益率を高める方針としております。プロダクトサービス及びOPSサービスについては、新規の契約数を増やすことで売上高を増加させる方針としております。

以上の結果、2020年12月期通期の売上高は、AIインテグレーションサービス354百万円(前期比16.6%増)、DXサービス605百万円(前期比5.7%増)、プロダクトサービス64百万円(前期比38.0%増)、Opsサービス110百万円(前期比23.4%減)を見込み、合計1,134百万円(前期比6.3%増)を見込んでおります。

当第2四半期累計期間におきましては、顔認証プラットフォームの開発案件やAIとサーモグラフィを使ったサービスの開発案件、ドローンやスマートグラスを利用したピッキング業務の効率化案件などを受注することが出来ました。その結果、2020年12月第2四半期累計期間の売上高は、AIインテグレーションサービス175百万円、DXサービス320百万円、プロダクトサービス33百万円、Opsサービス59百万円となり、合計588百万円となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、旅行業界や飲食業界に係る案件及び、東京オリンピック・パラリンピック関連の案件など、一部の業種で当初見込んでいた案件が中止若しくは延期により獲得できないという影響はありましたが、業態の変化に積極的な顧客、およびデジタル化を推進する顧客との取引が拡大し、他の業種業態の顧客からの受注を獲得することができ、当社の計画に影響は軽微です。

## (2) 売上原価、売上総利益

当社の売上原価は主に、当社社員のうち案件に係るエンジニアの件費、及び外注費で構成されており、売上費用については、個々の案件ごとに原価を想定し、その上で過去の実績をもとにサービス区分ごとに目標売上総利益率を設定し、予測原価を想定できない案件に関してはサービス区分に応じた予測売上総利益率を設定し直し、全体の売上原価を算出しております。

当社においては、上記利益計画を作成するにあたり、総売上利益率の達成を最重要事項として設定しております。2020年12月期においては、原価圧縮のための施策として、開発ソースの共通化（ライブラリ化）や開発時管理ツールの採用による効率化を促進しております。

以上の結果、売上が前期比で6.3%増加した一方で、売上原価については、2020年12月期通期の売上原価の増加を1.8%に留め、593百万円（前期比1.8%増）を見込んでおります。第2四半期累計期間の実績値は280百万円となっております。また、売上総利益は、541百万円を見込み、第2四半期累計期間の実績値は307百万円となっております。

## (3) 販売費および一般管理費、営業利益

販売費および一般管理費については、件費及び地代家賃、支払報酬料が主たる費目となっております。件費については、エンジニア以外の社員の給与等及びエンジニアのうち案件にかかわらない工数に係る給与等で構成されており、直近の実績値及び今後の人員計画に基づき策定しております。本社の地代家賃や顧問への支払報酬料など固定で発生する費用は前期実績をもとに個別の費用を積み上げて算出しております。

前期において、教育研修費として20百万円の計上がありましたが、今期は計上しない予定であるため、今期においては、前期と比較すると教育研修費が減少しております。その他の科目においては前期の実績を踏襲したものとなっております。

この結果、2020年12月期通期の販売費および一般管理費は、357百万円（前期比2.0%減）を見込み、第2四半期累計期間の実績値は173百万円となっております。また、営業利益は、184百万円（前期比52.9%増）を見込み、第2四半期累計期間の実績値は134百万円となっております。なお、2020年12月期上期においては、売上総利益率の高い案件を獲得できたこと、原価の低減策が想定以上に功を奏したという特殊要因により、第2四半期累計期間の営業利益は、2020年12月期通期計画の75%を占めております。

## (4) 営業外収益・費用、経常利益

2020年12月期の見込にしましては、上場関連費用11百万円及び支払利息など過去実績から恒常的に発生するものを計上した結果、経常利益は172百万円（前期比42.0%増）を見込み、第2四半期累計期間の実績値は131百万円となっております。

## (5) 特別利益・損失、当期純利益

特別損益の計上予定はなく、2020年12月期通期の当期純利益は138百万円（前期比38.8%増）を見込み、第2四半期累計期間の実績値は110百万円となっております。

### 【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合がございます。

以上

2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年9月29日

上場会社名 株式会社ヘッドウォータース 上場取引所 東  
 コード番号 4011 URL https://www.headwaters.co.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 篠田 庸介  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 原島 一隆 (TEL) 03(5363)9361  
 四半期報告書提出予定日 2020年9月29日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の業績(2020年1月1日～2020年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	588	—	134	—	131	—	110	—
2019年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	134 74	—
2019年12月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 2020年12月期第2四半期累計期間より四半期財務諸表を作成しているため、2019年12月期第2四半期累計期間の数値及び前年同四半期増減率は記載しておりません。  
 2. 当社は、2020年6月16日付で普通株式1株につき普通株式200株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。  
 3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため、記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	658	493	74.9
2019年12月期	560	382	68.3

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 493百万円 2019年12月期 382百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0 00	—	0 00	0 00
2020年12月期	—	0 00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,134	6.3	184	52.9	172	42.0	138	38.8	163 79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年12月期2Q	822,800株	2019年12月期	822,800株
-------------	----------	-----------	----------

② 期末自己株式数

2020年12月期2Q	一株	2019年12月期	一株
-------------	----	-----------	----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年12月期2Q	822,800株	2019年12月期2Q	一株
-------------	----------	-------------	----

(注) 1. 当社は、2020年6月16日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数 (普通株式) を記載しております。

2. 当社は、第2四半期の業績開示を2020年12月期より行っているため、2019年12月期第2四半期の期中平均株式数を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、一定の内外需要を背景とした継続的かつ底堅い基調でありましたが、米中、中東などの国際情勢に端を発する海外初の景気下振れリスク、当第1四半期より発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大により先行きが不透明な状況にもあります。

このような経済環境の中、次世代高速通信網5Gの導入、社会へ普及が進む人工知能(AI)など、人を介さないコミュニケーション手段の進展、リモートワークの広がりによるインターネットの活用が一層進むことが予測されます。

その中で、当社はAIを活用したソリューション開発の需要を的確に捉え、新規の顧客からの受注を伸ばしております。また、既存のDX(デジタルトランスフォーメーション)サービスにおいても継続した顧客からの案件の獲得、プロダクトサービスやOPSサービスにおける継続案件により、業績を伸ばしております。

当第2四半期累計期間におきましては、AIや機械学習機能をロボットやスマートスピーカー、スマートフォンなどに連携する、AIソリューション開発の実績を積み、概念実証から業務システム等への受注が増加しております。その結果、当第2四半期累計期間の売上高は588,647千円、営業利益は134,264千円、経常利益は131,853千円、四半期純利益110,867千円となりました。

当社では、AIを活用し更なる顧客サービスの実現を目指すAIインテグレーション事業の単一セグメントで推進しております。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比較して98,461千円増加し、658,973千円となりました。流動資産は前事業年度末と比較して97,193千円増加し、640,904千円となりました。主な要因は、仕掛品が2,760千円減少したものの、現金及び預金が80,400千円、売掛金が21,967千円増加したことによるものであります。固定資産は前事業年度末と比較して1,267千円増加し、18,068千円となりました。主な要因は、パソコン等の備品取得による有形固定資産1,566千円の増加によるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末の負債は、前事業年度末と比較して12,406千円減少し、165,510千円となりました。主な要因は、借入金を一括返済したため1年内返済予定の長期借入金10,008千円、長期借入金16,624千円が減少したものの、買掛金11,556千円、未払消費税等4,553千円、未払法人税等4,362千円の増加によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末と比較して110,867千円増加し、493,462千円となりました。主な要因は、四半期純利益の計上による利益剰余金110,867千円の増加によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、資金という)の残高は、前事業年度末に比べ、80,400千円増加し483,239千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得た資金は、112,009千円となりました。

主な要因は、未払費用の減少4,275千円、法人税等の支払額16,995千円、売上債権の増加21,967千円があったものの、税引前四半期純利益131,853千円の計上、減価償却費2,552千円の計上、仕入債務の増加11,556千円があった

ことによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、4,858千円となりました。

主な要因は、パソコン等の備品取得に係る有形固定資産の取得4,858千円があったことによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、26,632千円となりました。

主な要因は、長期借入金の返済26,632千円があったことによります。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、当該業績予想につきましては、本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	402,838	483,239
売掛金	123,792	145,759
仕掛品	4,863	2,102
前払費用	11,799	9,097
その他	416	705
流動資産合計	543,711	640,904
固定資産		
有形固定資産	11,762	13,329
投資その他の資産	5,038	4,739
固定資産合計	16,800	18,068
資産合計	560,512	658,973

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	51,258	62,815
1年内返済予定の長期借入金	10,008	—
未払金	13,815	13,177
未払費用	33,013	28,737
未払消費税等	19,333	23,886
未払法人税等	21,607	25,969
前受金	943	1,845
預り金	11,311	9,077
流動負債合計	161,292	165,510
固定負債		
長期借入金	16,624	—
固定負債合計	16,624	—
負債合計	177,916	165,510
純資産の部		
株主資本		
資本金	243,866	243,866
資本剰余金	233,866	233,866
利益剰余金	△95,136	15,730
株主資本合計	382,595	493,462
純資産合計	382,595	493,462
負債純資産合計	560,512	658,973

## (2) 【四半期損益計算書】

## 【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	588,647
売上原価	280,815
売上総利益	307,831
販売費及び一般管理費	※ 173,567
営業利益	134,264
営業外収益	
受取利息	1
還付消費税等	17
その他	9
営業外収益合計	28
営業外費用	
支払利息	60
支払保証料	56
為替差損	117
上場関連費用	2,000
その他	206
営業外費用合計	2,440
経常利益	131,853
税引前四半期純利益	131,853
法人税、住民税及び事業税	20,986
法人税等合計	20,986
四半期純利益	110,867

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	131,853
減価償却費	2,552
受取利息	△1
支払利息	60
為替差損益 (△は益)	117
売上債権の増減額 (△は増加)	△21,967
たな卸資産の増減額 (△は増加)	2,760
仕入債務の増減額 (△は減少)	11,556
未払金の増減額 (△は減少)	100
未払費用の増減額 (△は減少)	△4,275
未払消費税等の増減額 (△は減少)	4,553
その他	1,738
小計	129,049
利息の受取額	1
利息の支払額	△46
法人税等の支払額	△16,995
営業活動によるキャッシュ・フロー	112,009
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△4,858
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,858
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△26,632
財務活動によるキャッシュ・フロー	△26,632
現金及び現金同等物に係る換算差額	△117
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	80,400
現金及び現金同等物の期首残高	402,838
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 483,239

（4）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報）

当社は、AIソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。